

薬学研究科 薬学専攻（博士課程）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

薬学研究科薬学専攻（博士課程）は、次に掲げる資質・能力を醸成し、さらに薬学専攻（博士課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人に対して、博士（薬学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる地域社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や医療倫理にかかわる能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会において貢献する態度
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボロミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療の進歩や種々要因のグローバルな変化が地域社会にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の醸成のために、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論を必修科目とし、医療薬学における高度な専門的な知識の修得および豊かな学識の涵養を図り、急速に進む国際化に対応した地域社会の維持・発展に寄与できる能力を養成します。
- 特論演習では、各領域それぞれが専門とする教育・研究を対象とした知識と技能を修得し、自立した研究能力を有するスペシャリストを目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて策定された研究方針を、副研究指導教員も加えた定期的なディスカッションをとおして形成的評価を繰り返します。最終的に博士論文として完成させ、研究科委員会における総括的評価により、極めて高度な研究能力を有することを確認します。

●論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）】

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、城西大学の建学の精神と薬学研究科の教育研究上の目的を理解するとともに、本専攻のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の修得を目指す以下のような人の入学を期待します。

- 大学または社会で学んだ教養を深化させ、薬学の専門知識をさらに向上させ、個々人の主観的 QOL（quality of life：生活と人生の質）を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えること、先進の探求的研究に基づく知見を常に広く収集すること、医療倫理について深く考察すること、などに意欲的に取り組むことができる人
- 薬学専攻（博士課程）において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人

入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学

入学者の受け入れは、以下の点に留意して実施します。

- 薬学専攻（博士課程）の教育研究上の目的に相応しい人材を面接試験により評価・審査します。
- 卒業研究などのこれまでの研究経験に関するプレゼンテーションにより、基本的な研究能力とプレゼンテーション能力を評価・審査します。
- 薬学の研究をする上で必要な英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学の理解度を評価・審査します。

(2023 年 4 月入学者用)